

令和4年度 第1回周南市立図書館協議会 議事録

【日 時】 令和4年8月4日（木）10:00～11:30

【場 所】 周南市立中央図書館 3階集会室

【出席者】 《協議会委員・出席10名》

石丸 敬子 委員	原田 茂 委員	川野 玲子 委員
松永 恵子 委員	山城 佳子 委員	平岡 正夫 委員
三芳 慈 委員	豊田 順子 委員	河村 昌子 委員
松田 邦夫 委員		

《事務局13名》

【傍聴者】 0名

【議 事】

1. 開会（10:00）

2. 教育長挨拶

3. 自己紹介

（1）委員自己紹介

（2）事務局自己紹介

4. 協議会成立宣言

委員 11 名中10名の出席により、会議の成立を宣言

5. 周南市立図書館協議会委員長、副委員長の互選について

委員長・原田委員、副委員長・豊田委員をそれぞれ選出、承認

委員長、副委員長のあいさつ

6. 議題

（1）令和3年度各図書館事業報告について

「令和3年度 周南市立図書館年報」に基づく事業報告及び電子図書館運用開始について事務局から説明

・各図書館の資料数、来館者数、館外貸出利用者数、予約・リクエスト資料数等の推移、市民センター文庫、行事の概況等

（質疑等）なし

## (2) 令和4年度周南市立図書館基本方針及び各館行事計画等について

「令和4年度周南市の教育事業概要(抜粋)」及び「令和4年度行事計画概要」を基に事務局が説明

- ・教育大綱に基づく対象施設と重点事業及び図書館費について
- ・令和4年度行事計画概要について各館長より説明

(質疑等)

委員長: 駅の図書館で色んなものを利用させていただいているので、色々にご迷惑もかけているかなと思うのだが、今一番駅の図書館として苦労されていることは何か尋ねてみたい。

事務局: 駅前図書館としては、事業の決行にあたり、人数の制限だったりイベントを十分にコロナ対策をしながらというところで、運営をするのが非常に大変だと思っている。ただ、館内にCO2センサーという空気の循環がしっかり行われているか、循環がされていないとアラートが鳴って管理室の方で分かるようになっている。先程効率的な空気の循環とエアコンの効きというのがあったが、こちらもアラートが鳴ったらしっかりと空気循環させて換気をしているという状況である。なので館内にいらっしゃる皆様なるべく居心地が悪くならないように工夫をしながら運営をしているところである。

委員: 十分なコロナ対策ということだが、山口県全体で2,000人を超えて、昨日だったか周南市も180何人だったと記憶しているが、今、駅前図書館ではセンサーみたいなものが鳴ると言われたが、他の図書館に関してはどうなのかなというのが気になっている。それと、私も古文書をはじめる会を主催しているが、こんな風に2,000人を超える事態で、来週古文書をはじめる会があるが、9割方高齢者なので、開催すると言えば熱心なので参加されるが、そのあたりが主催する方として気になっているので、コロナ対策に関して色々行う方法など、今日お聞きできたらと思う。

事務局: 中央図書館に関しては、空調の方が効きが悪いという性格があるが、空調に影響のない範囲で窓を少しずつ開けて換気をして閉めきらないようにしている。空間的に広いのと、いわゆるビル管理法に基づく管理はしているが、先程も申したが空調の効きが悪いので、扇風機を回したりしている。あとは当然ながら手指消毒だが、入館される時にも備えているが、こういう形で部屋を使われる講座とかは、また別に消毒セットを設置している。その他講座等の場合は検温させていただいたり、テーブル等に消毒セットを準備して、自由にご利用いただけるような体制を整えている。他館についても、同じような対策をしているところである。

委員: 今のに関連しているが、本を寝る時に読んだりする時があるが、時々小さな虫がいたりということもあるが、このコロナということが起こった時に、図書館の方で表面を拭いたり、職員の方が大変なご苦労をされているのを見ている。またカウンターのところに四角い箱がどこからか寄贈されたのか購入されたのか分からないが、各図書館に置いてあるが、消毒することなら使おうと思って使ったりもするが、あれは

結局どういう効果があるのか。駅前図書館は、本を受け取ったところがない。置くスペースがないのかもしれないが、違うところに置いてあるが、何のために、どういう効果があるのかを改めて教えていただきたい。

事務局：あの箱は、元々は新南陽の1館のみだったが、一昨年だったか全館に設置した。紫外線を用いた書籍の除菌機で、紫外線を照射して、表面だけになるが、触ったところの除菌ができるというものである。スペースの問題で、一度に5、6冊程度しか入らないが、そちらの方で使っていただけたらと思う。かなり定着してきたようで、当初に比べて利用頻度が増えているように思う。

委員：情報の提供と共有のことについて、これは私の感じたことを申し上げるが、今6館ほど図書館があるが、まず駅前図書館は一般の企業からすればターミナル店舗で看板店舗になるが、そうすると色んな人が来られるということで、やはり各図書館の例えば鹿野図書館、熊毛図書館等のイベント等あらゆる情報を即座にユーザーに提供するというような形で、やはり一定の、今もやっていらっしゃるとは思うが、よりスピーディーにユーザーに伝えるということで、情報の共有をしていただくということ。だから小さいことを言えば、図書館の開館時間を即座に答えられない、そういうことがあってはいけないので、やはり情報共有をしっかりと、せつかく各館がイベントを色々やられるので、そのイベントを数多くの方に見ていただくという意味で、やはり図書館としては、各ユーザー、市民に情報を数多く提供する。それで子ども、高齢者まで情報を提供できるように、即座にスピーディーに提供できるような形で整えて行かれたらいいのではないかとこのように思っている。

事務局：イベント等々、図書館の行事等については、インターネット等で告知はしているが、インターネットの関係で見れる人しか見えないというご意見もいただいたことがある。告知方法で一番効果があるのが、市広報だと聞いている。ただ紙面の問題もあるので、私たちも原稿を出す時に、これだけしか書けないんだなということもあるので、それを色々と補足できる方法等もまた考えていきたい。また周知を図るような取り組みを進めていきたいと思う。

委員：みなさんのお話を大変参考にさせていただいている。コロナ対策のことが話題にのぼっていたが、学校で図書館を利用する時は、子ども達には、とにかく本を触る前の消毒と触った後の消毒ということを徹底することはしている。図書館はどうしても閉鎖的な空間の中であって、建物を変えるのは難しいので、さっきの換気からいけば、一時は窓を全開しておこうという形だったが、先程言われたみたいな15センチくらいを常時開けておいて、それからありがたいことに冷房が入っているので、そういう状況で今やっている。一昨日学校図書館部会の方の研修会があって、先生方も子ども達に本をどういう風に提案したらいいかという話で盛り上がっていて、子ども達に紹介する本を、先生方も知らない方が多いということで、公共図書館としっかり連携を取って情報をいただきながら、子ども達により良い本を提供していけたらなとい

う話になったので、これからも引き続きお願いできたらと思う。

委員：突飛な質問をして良いか。今、世界の中では漫画というのが日本の文化だという風に認識をされているのか、どういう位置づけになっているのかを正しくは知らないが、日本全国で結構だが、図書というのは漫画というのはどういう位置づけになっているのかというのを、感想でも良いが、館長、いかがなものか。ちょっと気になってるところがあって、図書を限られた予算の中で選んで購入されると思うが、予算は段々減ってくるし、ニーズは変わってくるし、人の感覚もそういうふうに変わってくると、どういう風を選び、どういう傾向にあるのかなというのが、分かれば教えていただきたい。

事務局：あくまで個人的な考えになるが、いわゆる漫画が自分もすごく好きで読むことも多いが、本に入っていくというところについては、かなり優れたものである。入りやすいし、読みやすい。現に今、コミックもだがコミックエッセイというのがかなり流行っている。いわゆる通常であれば文章で書いて出すようなものを、漫画にして出すというのがあって、電子図書館を始めた関係で調査をしたら、やはりコミックエッセイがかなり出ているというのは聞いている。ただ、うちの選書基準にコミックス、漫画は収集しないというのが原則としてある。時代の流れでそれを再考する必要があるが、ただそればかりに傾倒するというのも活字に親しむという意味では、少しどうなのかなという考えもあるので、その辺のバランスを取りながら、お客様の興味を引くものとして、その一部としてはもちろん有意義だとは思いますが、それにあまり傾倒するのはどうかというのは、あくまで個人的な考えになる。あとは周南公立大学にもそういう漫画いわゆるサブカルチャーに特化した研究もあると聞いているので、そういう形で時代の方で、色々やりながら従来のもの、それから新しくそういう考え方として、ニーズに合わせて色々と考えていけたらと思う。

委員：今、図書の中には漫画は入っていないのか。

事務局：ある。補足すると、中央図書館の場合は郷土資料にあたるコミック、漫画については、入れている。例えば「海賊と呼ばれた男」出光のお話とか「特攻の島」回天のお話は郷土資料という形で入れている。中央図書館に関しては、郷土に関するものは形態にこだわらず入れるという方法を取っている。

- (3) 第三次周南市子供読書活動推進計画進捗状況報告書（令和3年度）について  
「第三次周南市子供読書活動推進計画進捗状況報告書（令和3年度）」を基に事務局が説明  
(質疑等)なし

- (4) 周南市図書館施設分類別計画の改定について  
「周南市図書館施設分類別計画の改定について」を基に事務局が説明  
(質疑等)なし

## (5) 意見交換

委員：以前も質問があったかもしれないが、市民センターで子育てサロンとか色々しているの、市民センターに置いてある図書をちょっと見たいと思う時があって、紙芝居が欲しいとか思ったりするのだが、市民センターの図書というのは、どれくらいで変わっているのか。

事務局：市民センター文庫は、中央図書館から毎年配当している予算も僅かだがある。その選書については、どんなのが良いかというご相談があれば購入のアドバイスはさせていただいているが、市民センターの主事に基本的には選書はお任せしている。貸し出しや管理の方法については、全てお任せをしているので、もし要望等あれば、市民センターの方に言っていただきたい。

委員：貸し出しもされているのか。

事務局：場所によって形態は違うかもしれないが、貸し出しについても市民センターにお任せをしている。例えば図書館では貸し出ししない辞書の部類も貸し出ししているところもあると聞いている。

委員：では、うまくいけばこちらが必要で要望したものが、買ってもらえることもあるということか。

事務局：うまくいけばそうなる。あと図書館では、団体の受付、貸出もしているので、各図書館にご相談いただきたい。

委員：鹿野図書館は民族資料室が併設されているが、うちの一番下の息子が小学生の時に、みんなで勝手に入って悪さをしてしまって、しばらく資料室に立ち入り禁止になっていたのだが、現状はどうなっているのか。

事務局：鹿野図書館 2 階にある民族資料室については、常時自由に見学いただけるようになっている。ただ、あまり来館、見学される方がいらしゃらないので、日頃は電気は全部切つてあるので、見学されたい時にはカウンターに声をかけていただいた上で見学していただくという体制で、自由に見ていただくということで行っている。

委員：このマイク(発言用)を拭きながら渡されるのが大変だなと思っている。私自身、子ども達が毎日 80 人くらいくるところで仕事をしているが、この感染対策、本当にできることを一生懸命にやっていて、今のところ閉所しないでやれている。よく分からないままの 3 年間で、ものすごい消毒したり色んなことをしてきた。床なんかは毎日消毒液を吹きかけて、拭いている。それは未だに継続していて、床がピカピカになってすごく良かったが、反対に靴下の子どもが滑って、椅子で頭を打って怪我をすることがあって、結局上靴使用になった。でも政府が言っているのは、もうそういう接触感染はないとか言っているが、もうやめられない状態で、未だにおもちゃの消毒とか色んな雑務が開所前と開所後にあつて、保育する時間をすごく圧迫している。もうそろそろ、本当のところどうなんだと。エアロゾルならエアロゾルでいいが、今度は本当に空気が通っているか悩んでいて、私たちのところは CO2 のセン

サーがそれほど高いものではないが、早めに言って役所の人に 2 つ用意してもらっていて、全部の児童クラブに設置しているわけではないと思うが、それを見ながら、ほぼ外と同じような数値が出る中で子ども達を生活させている。結局今だったら、部屋の温度は 30 度くらいになる。エアコンをかけていても、19 度設定で。扇風機も何台もグルグル回している。でも今度はグルグル扇風機を回して、そのエアゾルをかき混ぜて、もしかして何かあったらどうなるんだろうと、本当に不安である。私の願いは、どうか賢い人たちがこうだということを教えてください、講習会を開いて教えていただきたい。風の通りがどうなのかをチェックする方法とか具体的なそういうのを図書館主導でやっていただけないか。私は講習会があったら、すぐ行きたい。本当に困っている。

事務局：正直、私も困っている状態である。先日政府の方針で図書館が例示されていて、例えば距離をとって黙って本を読む場合はマスクをしなくて良いという形が出ている。現在図書館はその方針に従っているが、これ以上のことはやらないが、中央図書館に関しては、窓を開けながらやっている。空調効率を考えると当然だが、先程の扇風機にしてもそうだが、なかなか難しいところがあるところは、正直感じているところである。色々な情報を仕入れながら、図書館としての対応を色々と考えていきたいと思っている。図書館協会の方も、そういう方針を出していて、要は本を触る手をきちんとしなさいよというイメージを持った。換気についてはもちろんだが、本そのものの消毒ではなくて、本を触る手の方が重点になっているのかなと個人的には思ったので、少なくとも職員には、消毒を徹底させていこうと思っている。

委員：自分が子供会にも関係していて、昨年度末から今年にかけて新しい中高生のジュニアリーダーの試みとして、小学生に読み聞かせをしようということで、今まではゲームとかの遊びを中心にしていたが、遊びだけじゃなくて違うこともということで、読み聞かせをやることになった。新南陽のくんちゃんのお話し会のメンバーの人に、本の持ち方、読み方等を教えてもらって、今度コロナが収まった時にまた、お話しを聞いて、実際に小学生から希望があった時にやってみようということで、一緒に習ったが、座ってお話しを聞いていると本のすごさというのは、小さい子ではないが、すごいなと思って引きつけられて見ていた。これからもそういうことを利用しながら、自分も一緒に取り組んでいきたいと思っているので、そういう読み聞かせの本もどんどん入れてほしいと思っている。

委員長：私の体験談を一つお話ししたい。印刷物を私が見てびっくりしたものがあるが、50 年前に山口県が若い経営者のアメリカ旅行という大変無理な企画をして、無理に人を集めたから、一番適任者が集まったわけではなかったが 23 名がアメリカに渡って、色々な角度から、県が世話をするわけなので公のところを回る機会があった。資料をたくさんいただいて、ほとんどの方は重いからそれを全部捨てられ

たのだが、私はどういう意味か全部提げて帰るということを計画して、50年それを眠らせていた。重量を計ったら、37キログラムあった。印刷物をずっと見て、これは今訳したら面白いなということで、これを始めようと思っている。50年前のアメリカというのは、1ドルが350円くらいで今とだいぶ違うが、私は日本が良く頑張ったなというような気もする。この印刷物を今からコツコツと訳すと何か宝が出てきそうだなという気持ちを持ったので、やっぱり本は大切だなと思っている。これからも皆様方、どうぞ地域の図書館を温かく守っていただいて、子ども達もそれを大事にしてもらえるような地域になりたいなと思った。

事務局：次回の協議会については、開催日未定であるが、また期日が近づいたら、日程調整をさせていただく。それとお気付き等あれば、遠慮なく連絡いただくと助かるので、よろしくお願いします。

(5) 閉会 (11:30)